

## 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続的可能な農山漁村等地域育成への貢献

 タイトル こども農学校

 JA名 愛知東（愛知県）

<b>1 動機</b> （経緯）	JAが行う休日の“食農教育”として平成17年度に開校し、田畑での農作業や地元食材の調理加工を通じて、次代を担う子どもたちに「食と農の大切さ」を学んでもらうことを目的とする。
<b>2 概要</b>	JA本店に隣接する「こども農園（畑）」と管内の棚田「四谷千枚田」で年10回の農業体験に取り組む。収穫野菜は子どもたちが自ら調理し、秋に開かれるJAまつりでは「子ども八百屋さん」を出店し、収穫物の販売体験を行う。 JA施設を利用した流しコンニャク体験、棚田の米を守る案山子づくりなども企画し、稲刈り体験など年3回の親子授業も取り入れている。 活動については組合員向け広報誌やホームページ内のブログなどで情報発信。広報用に撮りためた写真はCD-Rに焼き付け、全カリキュラム終了後にデータをもとにしたアルバムとともに参加児童に配付している。 平成26年度には開校10周年の節目として記念大会を開催し、歴代の卒業生やJAスタッフなどが一堂に集まり、カレー作りや思い出発表などで交流した。
<b>3 成果</b> （効果）	ロコミで活動が広がり、ここ数年は定員を上回る申込みをいただくなど、管内在住の親子の“食への関心”の高まりを実感している。「将来の就農、農業学校への進学希望のきっかけになった」との卒業生の声も寄せられており、高校在学中にスタッフを務めた学生がJAへ就職した事例もある。
<b>4 今後の予定</b> （課題）	3～6年生児童が対象ということで、連続参加者（4年間）が作業に慣れすぎてしまう傾向がみられる。4年サイクルでのカリキュラムを構築することで、常に新しい気持ちで体験授業に取り組めるような企画としていきたい。 開校当時は課長級の役付職員が務めていた担任スタッフも、近年は部署の垣根を越えた若手職員が1年間を通して務め、コミュニケーション能力の向上など職員教育の場としても位置付けられる。